

佐賀・荒堅目遺跡 あらかため

- 1 所在地 佐賀県神埼郡神埼町大字本堀字荒堅目
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)八月～一九八五年三月
- 3 発掘機関 神埼町教育委員会
- 4 調査担当者 八尋 実
- 5 遺跡の種類 集落・墳墓跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代前期～中期、古墳時代前期、平安時代～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(佐賀)

荒堅目遺跡は神埼町南部に位置し、背振山系に源を発する田手川西岸に形成された標高約3mの自然堤防上に営まれている。一九八四年度農業基盤整備事業にともない調査が実施された。その結果、弥生時代前期・中期の土壇・土墳墓、古墳時代前期の堅穴住居跡・井戸跡・土壇、平安時代の井戸跡・掘立柱

建物跡・柵・溝跡・土壇等、鎌倉時代の井戸跡や貝類の堆積が認められた。木簡は、九世紀前半頃に位置付けられる溝跡最下層より出土した。この溝跡は、中心施設の東境を区画するものと考えられ、溝跡西端部には平行して柵が検出された。また、注目される遺物として緑釉陶器約六〇点以上・墨書土器・帯金具などがあり、墨書土器は「大吉」「北」と判読できる。

8 木簡の积文・内容

(1) ・ □□御前□□ □□二人吉□□一人

・ □□人□□人貞□□一人

26.7 × 2.3 × 5.0 cm

四二文字のうち判読できるものは一七字と少なく、不明な点が多い。しかし、「蔵吉」を人名とも地名とも解釈できるのが問題であるが、一人や二人など人数に関する文字があることから、当木簡は人の動きに関するものと考えられる。上端は二次的に整形している。

9 関係文献

神埼町教育委員会『荒堅目遺跡』（一九八〇年）

（八尋 実）

木簡研究 第六号

巻頭言——記紀批判と木簡——

直木孝次郎

一九八三年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京二条大路・左京二条二坊十二坪 平城京左京八条三坊十一坪 東大寺仏餉屋下層遺構 藤原宮跡 長岡宮・京跡 平安京右京八条二坊跡 定山遺跡 水走遺跡 津堂遺跡 高宮遺跡 池上・曾根遺跡 万町北遺跡 山垣遺跡 福成寺遺跡 沢田宮谷遺跡 長尾沖田遺跡 小川城遺跡 道場田遺跡 宮久保遺跡 鹿島湖岸北部条里遺跡 東光寺遺跡 北大萱遺跡 篠脇遺跡 北稻付遺跡 鯉沼東Ⅱ遺跡 下野国府跡 多賀城跡 一乗谷朝倉氏遺跡 近岡遺跡 曾根遺跡 前田遺跡 美作国府跡 草戸千軒町遺跡 尾道遺跡 芳原城跡 大宰府跡 一九七七年以前出土の木簡（六） 奈良・平城宮跡（第三二次）

平安時代の日記にみえる木簡 山田 英雄
日本古代の人口について 鎌田 元一

彙報

『木簡研究』一〜五号総目次

頒価 三五〇〇円 千四〇〇円